

麦作情報 No1

令和元年 12月25日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
12月	1	8.9	9.5	14.2	13.4	4.3	5.5	14.7	83.5	19.5	11.4
	2	8.2	6.7	13.3	12.7	3.6	2.4	12.5	0.0	18.8	22.3
	3	7.5	8.2	12.4	15.0	3.0	2.4	10.4	0.0	18.5	26.4
	4	6.9	11.4	11.8	14.9	2.5	7.2	9.3	17.0	18.8	17.4
	5	6.6		11.6		2.0		8.3		19.4	
	6	6.2		11.1		1.6		10.0		23.2	
1月	1	5.8		10.4		1.4		10.0		18.0	

- 平均気温は、平年と比較すると11月中旬から11月下旬までは2~3℃ほど高く、12月4半旬は4℃ほど高く推移した。
- 11月の降水量は平年に比べ少なかった（平年比36%）。12月は、1日にまとまった降雨があり、12月の降水量は平年に比べ多くなったものの、日照時間は12月1半旬以外については多照傾向で推移している。
- 福岡管区気象台の1ヶ月予報（12月19日発表）：平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い予報。向こう1か月の平均気温は、1週目は、高い確率80%。2週目は、高い確率60%の予報。向こう1か月について、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並みまたは少ない確率ともに40%の予報。

2. 生育概況

- 令和2年産麦の播種盛期は、11月上中旬~11月下旬となった。
- 本年は、播種後の気温が平年より高く推移しており、適度な降雨があったため、出芽に要する期間は短くなった。気温が高く推移しているため出芽後の生育も平年より早くなっている。
- 高温や降雨の影響で、除草剤の薬害が散見されたが、生育抑制等の大きな影響は見られていない。



除草剤による薬斑

《麦類の生育状況（12月25日時点）》

- 11月10日頃に播種された圃場では、現在本葉6葉目が展開中（5葉期）
- 11月15日頃に播種された圃場では、現在本葉5葉目が展開中（4葉期）
- 11月20日頃に播種された圃場では、現在本葉4葉目が展開中（3葉期）
- 11月下旬頃に播種された圃場では、現在本葉2葉目が展開中（1葉期）

3. 今後の管理

1) 肥培管理

- 播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある圃場（堆肥連用田など、令和元年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

①11月10日頃播種

→まもなく幼穂形成始期を迎える。追肥が未施用の圃場は速やかに追肥を施用する。

②11月15日頃播種

→追肥の時期を迎えている。暦通りの量を施用する。
※大豆あとの圃場については、麦の生育を見て施肥量を調節する。

③11月20日頃播種

→追肥の時期を迎えている。暦通りの量を施用する。
※大豆あとの圃場については、麦の生育を見て施肥量を調節する。

④11月下旬播種

→まもなく2葉期を迎える。1月中旬をめぐりに追肥を施用する。

2) 排水対策

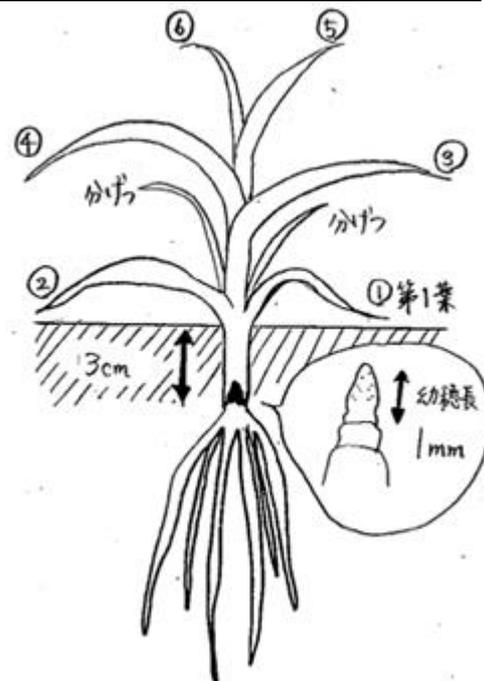
- 根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）をまくら地までとおして、排水溝の整備を入念に行う。

- 麦類の発根力は、最高分げつ期～節間伸長期（概ね7～8葉期頃）が最も高いとされている。

根の活力維持のためにも、排水対策は重要な作業である。

排水溝の整備の実施により、麦の根の活力維持に繋げる！！

幼穂形成始期（麦 5.5L～6.0L 頃）



3) 麦踏み、土入れ

- 12月の断続的な降雨により、畝間に帯水している圃場もみられる。2月に入ると降水量が多くなる場合があるため、それまでに溝をつなぐなどの排水対策を徹底する。
- 必ず圃場が乾燥した状態（畝間が白乾している状態）で、麦踏み（3葉期以降から）や土入れ（5葉期以降から）を実施する。
- 土壤水分が高い状態で麦踏みを行うと、土がしまり湿害による根腐れを起し、マイナス要因となる。（土を手で握り、湿った状態であれば、無理な麦踏は避ける。）

麦踏みの効果：①耐寒性の増加②根の伸長促進③早立ち防止による凍霜害回避など

- 圃場条件によっては、発芽に時間を要さず、生育ステージが進み、早めに莖立ち期を迎えることもあるので、必ず麦の生育ステージの確認を行う。

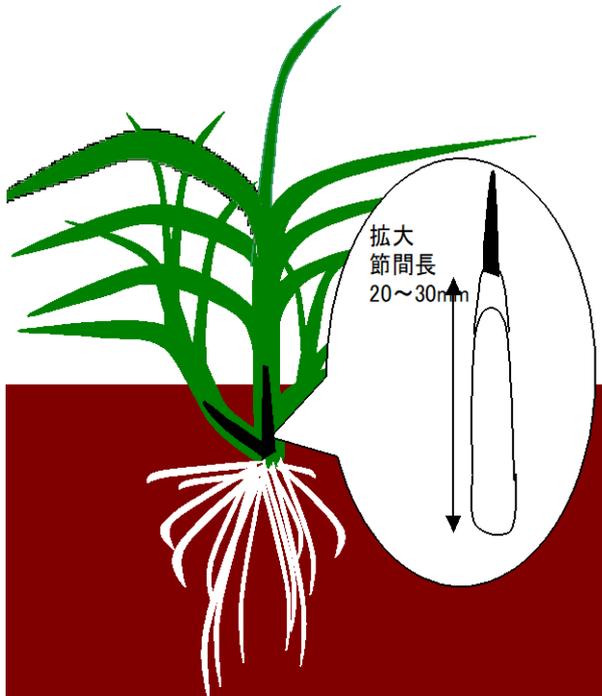
幼穂凍死を回避するためにも、土壤が乾燥条件になれば、麦踏み作業を10日間～2週間の間隔で実施する。

○莖立ち期以降は、莖折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

※11月15日以前に播種された圃場は、出芽後気温が高く推移しており生育が非常に早く、倒伏する恐れがあるため、可能な限り麦踏みの回数を多くする。（麦踏みと麦踏みの間は、最低でも1週間は空ける）

土入れの効果：①防寒②倒伏防止③無効分げつの抑制④雑草防除⑤表面排水など

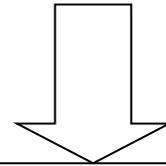
- 土入れ作業は、本葉5～6葉期から圃場の条件をみながら計画的に実施する。
分げつ発生始期に、土入れの量が多いと分げつ抑制につながるため、生育初期（生育量が少ない）は土入れの量を少なく、生育量が多い場合は土入れの量はやや多めにする。
※生育が遅れている圃場や砕土が十分でない圃場では、過度の土入れは控える。



茎立期

【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき（葉齢は7葉期）。
節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。



【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が2cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。
この時期になると麦踏はできない。
幼穂凍死の危険が高くなる。
茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

4) 雑草防除

- 11月上中旬に播種された圃場ではスズメノテッポウや、近年問題となっているカズノコグサやタデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- 土入れによる雑草防除を実施するとともに、常に圃場の雑草発生状況を把握し、除草剤の処理時期を逸しないよう対策を徹底する。
- 除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。（天気予報を確認してください）
- カラスノエンドウは収穫時に混入する危険性が高いため、毎年発生している圃場や、すでに発生がみられる圃場では、アクチノール乳剤による防除を徹底する。
- ハーモニー75DF水和剤のカズノコグサへの使用時期は「麦1葉期～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。
カズノコグサは、スズメノテッポウに形態が似ており、防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF水和剤」（カズノコグサが1～3葉期までに）との体系処理で行う。

<カズノコグサとスズメノテッポウの識別法>

- 「根の色」で簡単に識別できる。
『カズノコグサ』の根は、『スズメノテッポウ』に比べるとやや「白色」。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいため、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏直後の除草剤の散布も控える。
- ②「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸しないように早めに茎葉処理剤を施用する。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF 水和剤	イネ科雑草 ・双メソポリ ・加ノグサ 広葉雑草 ・ヤムグ ・アサ ・ハバ	5~10g /10a	100L /10a	播種後～節間伸長前 ※カズノコグサに対しては、 <u>麦1葉期～節間伸長期</u>	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布された圃場では使用できません。 ・<u>薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。</u> ・使用器具の洗浄を入念にし、他作物との併用はしない。 ・双メソポリ、カズノコグサには効果が弱い(抑制するが枯死しない)
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグ ・カズノコグサ ※ <u>イネ科雑草には効果がない</u>	100~200ml /10a	70~100L /10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグ、カズノコグサに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・<u>気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。</u>

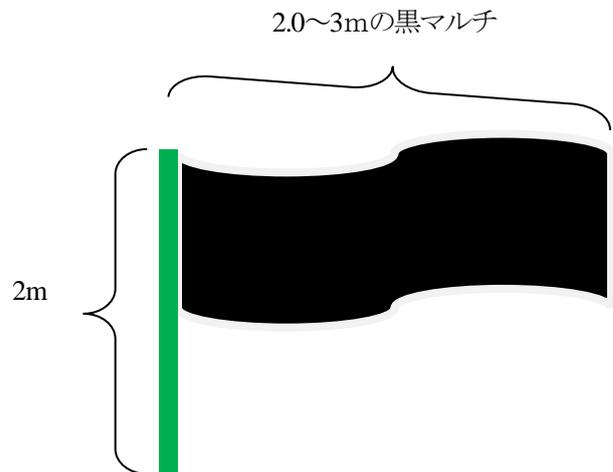
5) 鳥獣害対策 (カモによる食害)

- ・近年、11月播種された麦(用水路や川の横の圃場など)において、カモによる食害が見られる。
- ・カモによる食害は、麦の地際部まで草刈機ではらったようになる。
- ・カモ害の対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの方法が効果的であると言われている。
- ・効果的な『のぼり』の設置方法は、2mの支柱に、2.0 ~ 3.0mの黒色のマルチをつるした「のぼり」を、10aあたり5本均等に設置する方法である。



【カモによる食害】

※「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。(費用は、「のぼり」1本あたり約450円)



6) 酸性土壌による障害

- ・ 1月下旬頃に大麦の下葉の黄化が目立つ場合、酸性障害の可能性がある。

酸性障害の場合、生育期間中に石灰資材を施用しても、麦の生育改善への効果はあまり期待できない。

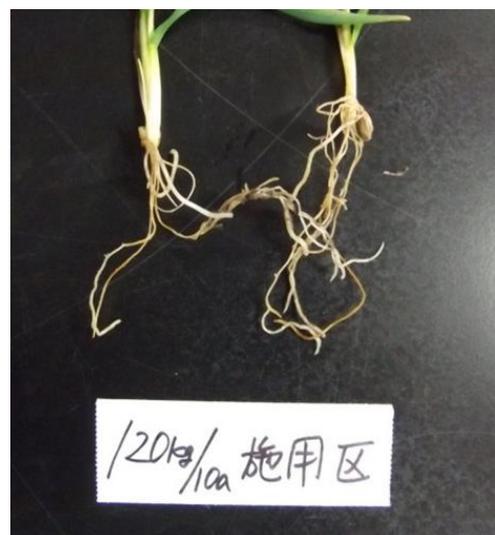
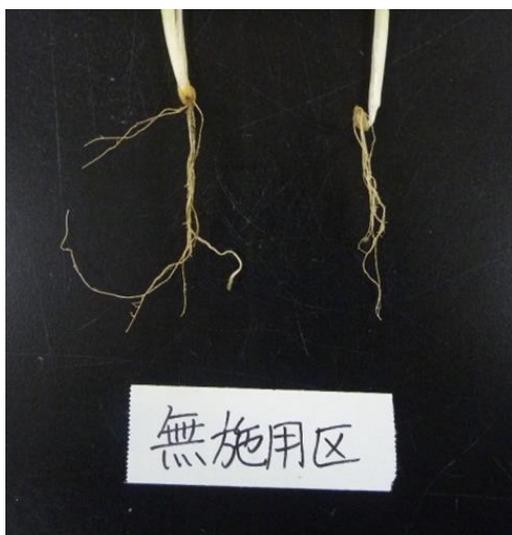
(過去、土壌pH4.8の圃場に消石灰を100kg/10aあたり施用したが、施用効果はなかった)

次年産以降にその圃場で大麦を栽培する際には、土壌pH測定を行い、必ず石灰資材の施用を行う。

※その圃場で、夏作に大豆を栽培する場合も必ず酸度矯正を実施する。

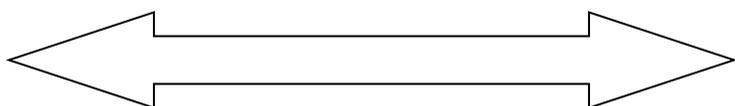


根の活性や量にも大きな違いが見られる



土壌pH 4.8

pH5.2



R2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

